

[研究会報告]

## ベナンの早産児の栄養状態に影響する要因

長堀 智香子<sup>1)</sup>、 金城 芳秀<sup>2)</sup>、 Assogba Joseph Vodounon<sup>3)</sup>、 Maroufou Jules Alao<sup>3)</sup>、  
Geneviève Padonou Batossi<sup>3)</sup>、 Benjamin Hounkpatin<sup>3)</sup>、 Eve Amoule Houenassi<sup>3)</sup>、  
山内 太郎<sup>4)</sup>

1) つくば国際大学、 2) 沖縄県立看護大学、  
3) Centre Hospitalier Universitaire de la Mère et de l'Enfant Lagune de Cotonou、 4) 北海道大学

### 要 旨

#### 目的

サブサハラ・アフリカでは、栄養不良が乳幼児死亡の大きな要因とされており、早産で産まれた子どもはリスクが高い。本研究は、乳幼児死亡率が高いベナン共和国のコトヌに住む5歳までの子どもの栄養評価を行い、早産で産まれた子どものその後の栄養状態に影響する要因を検討することを目的として実施した。

#### 方法

コトヌにある母子病院に予防接種のために訪れた母子300組を対象とし、そのうち出生時の在胎週数が母子手帳で確認できた260組を分析対象とした。子どもの身長および体重を測定し、母親に対しては構造化インタビューを2017年3～5月に実施した。子どもの栄養評価はWHOのZスコア-2未満を低身長または低体重とした。出生時の在胎週数別に正常産(在胎週数37週以降42週未満)と早産(在胎週数37週未満)の2群に分けて、低身長および低体重と質問項目の関連をt検定またはフィッシャーの正確検定で解析した。1歳までの早産の子どもは修正月齢を用いて評価した。

#### 結果

早産で産まれた子どもは55人(21.2%)であった。栄養状態について、早産群における低身長は13人(23.6%)、低体重は18人(32.7%)であった。早産の子どもとその後の栄養状態に影響する要因として、低身長・低体重のどちらも「出生時体重が2500g以上」、「母親の教育レベルが高い」、「食品を冷蔵庫に保存している」子どもは有意に栄養不良が少なかった。

#### 結論

「出生時体重」や「母親の教育レベル」との関連は先行研究を支持するものであった。「食品を冷蔵庫に保存している」については経済的要因としてだけでなく、母親の食品衛生への認識とも捉えることができると考える。今回、早産児であっても食品を「冷蔵庫」に保存していた母親の子どもに有意に栄養不良が少なかったことから、母親の食品衛生行動が、出生後の子どもの栄養状態に影響を与えることが示唆された。

キーワード：栄養不良、子ども、早産、食品衛生行動

---

連絡先：〒300-0051 茨城県土浦市真鍋6-8-33 つくば国際大学 看護学科  
長堀 智香子  
TEL : 029-826-6622, FAX : 029-826-6776  
E-mail : c-nagahori@tius.ac.jp